

## 2022年度（令和4年度）事業報告

### 総括

#### 2022年度（令和4年度）の事業

新規事業計画に基づく第3期3カ年計画の1年目として、2022年度（令和4年度）事業計画に沿って公益目的支出計画実施事業（継続事業）及びその他事業（実験動物飼育管理等事業、研究支援等事業、検査事業、普及啓発事業）を行った。

公益目的支出計画実施事業（継続事業）は2013年（平成25年）4月1日に事業を開始し2043年（令和25年）3月31日までの30年間で完了する見込みであるが、2022年度（令和4年度）はその10年目の事業を行った。その他の事業では2021年度に開始した貸室事業（研修室、実習用実験室の貸し出し）を継続して行った。なお、新型コロナウイルス感染症の影響もあり稼働率は5%（延べ12日）であった。

#### 1. 公益目的支出計画実施事業（継続事業）（定款の第4条第1項第3号業務）

##### 1-1 霊長類関係の研究者及び技術者を対象にした研究助成事業

2020年度（令和2年度）に旧研究助成規程を改訂して創設した「NHP-A(Nonhuman Primates-Associates)研究助成」に基づき、研究助成候補の公募・選考委員会による選考助成を行った。

第3回（2022年度）NHP-A 研究助成 応募件数： 6件

表1 採択課題

	採択課題	研究責任者
1	カニクイザルを用いた汎動物学的アプローチによる老年性 Tau 病変形成機構の解析	木村展之 (岡山理科大学獣医学部獣医保健看護学科)
2	継代集団飼育ニホンザルにおけるライソゾーム病モデルの確立と治療法開発	大石高生 (京都大学ヒト行動進化研究センター統合脳システム分野)

選考委員：寺尾恵治 (委員長)、片貝祐子、鯉江洋、清水慶子、藤本浩二、八神健一

表2 近年の受賞件数

	2,020年度 令和2年度	2021年度 令和3年度	2022年度 令和4年度
応募件数	5	11	6
受賞件数	2	2	2

## 1-2 技術者の育成及び知識の普及

予防衛生を中心とする公衆衛生の向上と科学技術の発展に寄与することを目的として、次の事業を行った。

- ① 予防衛生協会技術講習会の開催：実験動物技術者資格認定を目指す霊長類関係の技術者等を対象に、モデルザル「リアル1号」を使用して、カニクイザルの保定方法・採血方法・経口投与方法・骨髄液採取方法等の技術講習会を以下のように実施した。

表3 技術講習会

開催日	コース	受講者
2022年9月3日(土)	基礎	6
2023年2月25日(土)	基礎	6

開催場所はいずれも予防衛生協会本部(つくば市)

②「第26回予防衛生協会セミナー」を、霊長類関係の飼育管理業務や各種研究に従事する技術者及び研究者等を対象に開催した。

ア)日 時 2022年(令和4年)11月5日(土)

イ)場 所 予防衛生協会(フルウェブ方式)

ウ)テーマ シリーズ・サル類の感染症を知る-Bウイルスの歴史と感染対策

エ)参加者 86名

## 2. その他事業(定款の第4条第1項第1,2,4号業務)

2-1 国立研究機関の実験動物飼育管理業務及び研究支援業務

2-2 民間企業の研究支援業務

2-3 労働者派遣事業(動物飼育管理、研究支援、研究補助)

### 2-4 検査事業

医科学研究等に使用するサル及び従事するヒトの安全を確保するため、前年度から継続して以下の事業を実施した。

① 国内外のサル飼育施設から依頼を受けたサル等由来材料についてウイルス抗体検査や細菌検査等を実施した。2022年度(令和4年度)は、前年度より18,703件増加した。

表4 検査件数変遷

	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)
検査受託件数	14,492	15,027	33,730
(対前年度増減数)	(-2,532)	(535)	(18,703)

## 2-5 技術者の育成及び知識の普及

大学・研究機関・関連団体等に、獣医師や技術者を派遣し研修の実施や飼育技術者資格認定試験等への協力等を通じて技術者の育成及び知識の普及を行った。

### ① 公益社団法人日本実験動物協会への協力

- (1) サル類実技研修会
- (2) モニタリング技術委員会

### ② 特定非営利活動法人バイオメディカルサイエンス研究会への協力

- (1) バイオセーフティ技術講習会（病原体等安全管理技術者養成講座）

### ③ 大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所への協力

- (1) 「ニホンザル」バイオリソース母群検討委員会

### ④ 量子科学技術研究開発機構への協力

- (1) 動物実験委員会

### ⑤ 霊長類関係の研究者や繁殖育成等業務に携わる技術者からの技術的事項に関するメール等の問い合わせへの対応

### ⑥ 実験動物高度技術者養成講習会（サル類）

## 2-6 ホームページの運営

### ① 当協会の組織及び業務を紹介

- ② 当協会の山内一也会員が解説する生命科学の雑記帳を公開し霊長類の研究者及び繁殖育成等に携わる技術者向けに情報を提供  
(本欄は医学系大学の教材として広く活用された)

## 2-7 研究成果の発表

医科学研究用霊長類に係る研究を積極的に進め、その成果を学術誌や各種学会大会等において発表した。

### 【学会、講演】

濱野正敬、立石美代子

「ろ紙を用いた簡便・安全な検体輸送に向けての ELISA 検証実験」  
第6回日本ワンヘルスサイエンス学会年次学術集会  
(2022年9月) 対面形式